

令和4年度 全国学力・学習状況調査



— 取手市の児童生徒の学習状況について —

取手市教育委員会 指導課

令和4年4月19日(火)に全国一斉に行われた、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今回の結果をもとに、取手市内の児童生徒の学習状況を掲載します。

なお、この調査は学力の一部をはかるものであり、学力のすべてを示すものではありません。

【調査対象】

小学校6年生、中学校3年生



【調査内容】

- ①教科に関する調査
(国語、算数・数学、理科)
- ②生活習慣や学習環境に関する調査

国語

【小学校】

問題数 全14問

【中学校】

問題数 全14問

算数・数学

【小学校】算数

問題数 全16問

【中学校】数学

問題数 全14問

理科

【小学校】

問題数 全17問

【中学校】

問題数 全21問

質問紙

【小学校】 69項目

【中学校】 69項目

取手市内小学校 国語の結果



成果がみられたところ

- ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力 (話すこと・聞くこと)
- ◎登場人物の相互関係について、描写を基に捉える力 (読むこと)
- ◎人物像や物語の全体像を具体的に想像する力 (読むこと)

課題となったところ

- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力 (言葉の特徴や使い方に関する事項)
※昨年度に引き続き
例) ろくが→録画 はんせい→反省 した(しむ)→親(しむ)
- ▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力 (書くこと)

今後の学校教育の中で

- ◆学習した漢字を文の中で正しく使うことができるようにする。
 - ・学習した漢字を文章の中で使っているだろうか？
 - 同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組をする。
 - 漢字のもつ「意味」や「成り立ち」を調べさせたり、部首から意味を想定させたりし、タブレット端末を使う場合でも、変換された漢字に着目して、使い分けができるようにする。
- ◆文章に対する感想や意見を伝え合う中で、自分の文章のよいところを見付ける。
 - ・自分の文章のよさを見付けられるだろうか？
 - 伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする活動をしていく。
 - 互いの文章を読み合うことで、言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かすことができるようにし、自分の文章のよいところを見付ける経験を重ねる。

取手市内中学校 国語の結果



成果がみられたところ

- ◎聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する力
(話すこと・聞くこと)
- ◎論理の展開などに注意して聞く力
(話すこと・聞くこと)
- ◎自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す力
(話すこと・聞くこと)
- ◎字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する力
(我が国の言語文化に関する事項)

課題となったところ

- ▲文脈に即して漢字を正しく書く力
(言葉の特徴や使い方に関する事項)
例) (取り)のぞく→(取り)除く よろこ(んで)→喜(んで)
- ▲行書の特徴を理解する力
(我が国の言語文化に関する事項)

今後の学校教育の中で

- ◆文脈に即し、正しい漢字を書くことができるようにする。
 - ・漢字を正しく用いる態度と習慣が身に付いているだろうか？
 - 教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するようにすることを大切にする。書き取り練習をするだけでなく、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得ること、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けていく。
 - タブレット端末の変換機能を生かし、同音異義語にも着目して、文脈に合わせて使い分けができるようにする。
- ◆行書の特徴を理解し、行書で書くことができるようにする。
 - ・行書で字を書くときに、行書の特徴を意識しているだろうか？
 - 行書は、楷書よりも速く書けるという利点があることを知るとともに、楷書と比較して、点画が丸みを帯びる、止め・はね・払いの形が変わる、点画が連続したり省略されたり、筆順が変化したりする場合があることを押さえる。
 - 年賀状やお世話になった人へのお礼状、自分の名前等、積極的に行書を使って書いてみる。

取手市内小学校 算数の結果



成果がみられたところ

- ◎百分率で表された割合を分数で表す力 (知識・技能)
- ◎百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める力 (知識・技能)
- ◎作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、判断する力 (思考・判断・表現)

課題となったところ

- ▲目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考察する力 (整数の除法に関わる数学的活動)
 - 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できていない
- ▲二つの数量の関係について考察する力 (比例を用いた数学的活動)
 - 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答え方を式や言葉を用いて記述できていない

今後の学校教育の中で

- ◆考えをノートに記述する際に、「なぜ分かったのか」「どのように考えて解決しようとしたのか」などの“解決へのプロセス”を大切にする。
 - ・思いついたことを、すぐに書き始めてよいだろうか？
 - 全体の見通しを立ててから、「言葉」「式」「表」「グラフ」「自分の考え」などを、どのように組み合わせたら問題にあう表現、自分が納得する表現となるのかを伝える。
 - 分からないことがあるときにも「なぜ分からないのか」理由を考えるようにする。
- ◆文章の中にあるポイント見付けて、問題の意味を理解できるような導入を行う。
 - ・長い文章問題に対して苦手意識はないだろうか？
 - 線を引いて大切な事柄を目立たせるようにする。
 - 「何がどうした」「誰が〇〇した」など具体的な問題場面を抜き出し、絵や図などでイメージする。

取手市内中学校 数学の結果



成果がみられたところ

- ◎多数の観察や多回数の試行によって得られる確率の意味を理解する力 (知識・技能)
- ◎目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ意味を説明する力 (思考・判断・表現)
- ◎与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力 (知識・技能)

課題となったところ

- ▲自然数を素数の積で表すことができる力 (素因数分解の理解)
→素数と素数を**積で表さずに羅列**したり、素数でない積で表してしまったりしている
- ▲データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する力 (数学的表現を使った説明)
→二つの特徴の異なるヒストグラムから、**事象を数学的に解釈**し、数学的表現を用いて**説明すること**ができていない

今後の学校教育の中で

- ◆数や式を用いて考察する場面では、「なぜそうなるのか」を問うような授業展開をする。
 - ・素因数分解することによって、どんなことに利用できるか？
 - 約数を求める問題や、約数の和を求める問題は、素因数分解を活用して考えると説明がしやすいことを取り上げる。
 - 桁数の大きい素因数分解はweb上の暗号などに活用されており、日常に関連した数であることを授業で話すなど、興味をもてるようにする。
- ◆数学的な表現を使って説明するときには、具体的な数量や度数などの根拠を基に記述するよう指導する。
 - ・選択した根拠を的確に示しているか？
 - 時間について聞かれているのに、根拠を示さずに別のことを述べている場合、「比較して」と言われているのに、片方のよさしか示さない場合など説明不足の例をあげ、改善を図る。
 - グラフや表などの分析のしかた、根拠となる「データ」の読み取り方、その活用の仕方を取り上げる。

取手市内小学校 理科の結果



成果がみられたところ

- ◎問題に対して観察の視点を持ち、問題を解決するまでの道筋を構想する力 (思考・判断・表現)
- ◎実験の過程や得られた結果を適切に記録する力 (知識・技能)
- ◎観察で得た結果を、問題の視点で分析・解釈し、自分の考えをもつ力 (思考・判断・表現)

課題となったところ

- ▲習得した知識を、次の学習や生活などに生かす力 (知識・技能)
- ▲実験で得た結果を、問題の視点で分析・解釈し、自分の考えを持ち、文章で表現する力 (思考・判断・表現)

今後の学校教育の中で

- ◆知識を相互に関連付けて、より深く理解できるようにする。
 - ・問題解決のための学習活動を通して、主体的に知識を習得できるようにしているだろうか？
 - 習得した知識を生かせるような学習課題を設定し、試行錯誤を重ねながら、知識を習得する時間を確保する。
 - 習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明する場面を設定していく。
- ◆観察、実験などで得た結果について考察し、結論の根拠として文章で表現できるようにする。
 - ・実験で得た結果を基に、考察した自分の考えを表現しているだろうか？
 - 結果の数値や内容を根拠として、自分の考えを説明したり、文章にまとめたりする場面を設定していく。

取手市内中学校 理科の結果



成果がみられたところ

- ◎日常生活の現象から問題を見だし、変える条件と変えない条件を検討して実験を計画する力
(思考・判断・表現)
- ◎知識及び技能を活用し、分子モデルを表した図を基に、化学変化を化学反応式で表す力
(知識・技能)
- ◎観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、分析し、解釈する力
(思考・判断・表現)

課題となったところ

- ▲化学変化に関する知識と「エネルギー」領域の知識を関連付け、分析し解釈する力
(思考・判断・表現)
- ▲力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力について表現し、説明する力
(知識・技能)

今後の学校教育の中で

- ◆化学変化と「エネルギー」領域の知識を関連付け、分析して解釈できるようにする。
 - ・身近な現象について、探究しているだろうか？
 - 化学変化には、電気、熱、光などのエネルギーが関連していることがわかる事例について考える場面を設定する。
 - エネルギーが生み出される過程について考える場面を設定する。
- ◆物体に働く重力とつり合う力を矢印等で表現し、説明できるようにする。
 - ・探究活動を通して見いだした規則性や関係性を、日常生活や社会と関連付けているだろうか？
 - 物体に力を働かせる実験を行い、1つの物体に2つの力が働いていることに気付くようにする。
 - 身の回りで力がつり合っている物体を探し、タブレット端末で撮影し、物体に働く力を矢印で書き加える活動を設定する。

取手市内小中学校 児童生徒質問紙調査の結果



小学校児童質問紙の結果から

- 「朝食を毎日食べている」児童の割合が高いです。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思う児童の割合が、全国・県と比較すると高いです。
- ▲「自分にはよいところがある」と思う児童の割合が全国・県と比較すると低いです。(昨年度に引き続き)
- ▲「将来の夢や目標を持っている」児童の割合が全国・県と比較すると低いです。

今後の学校教育の中で

「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合が全国・県と比較すると低いことから、失敗を繰り返しながらも、自分の得意なこと、夢中になれることを発見して自分を磨くことのできる環境づくりを進めていきます。

中学校児童質問紙の結果から



- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っている」と思う生徒の割合が全国・県と比較すると高いです。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合が全国と比較すると高いです。
- ▲「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合が全国・県と比較すると低いです。
- ▲「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」生徒の割合が全国・県と比較すると低いです。

児童生徒の生活習慣と学力の関係

このような子供ほど、正答率が高い結果が出ています。

※小中学生ともに同様の傾向が見られます。

- 規則正しい生活をしている児童生徒（朝食を毎日食べている。毎日、同じくらいの時刻に寝ている）
- 自分には、よいところがあると思っている児童生徒
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている児童生徒
- 自分でやると決めたことを、やり遂げようとしている児童生徒
- 自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思っている児童生徒
- 読書好きな児童生徒
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝えられるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している児童生徒



今後の学校教育の中で

「朝食を毎日食べてる」「決まった時間に寝たり起きたりする」などの基本的な生活習慣の定着を図ること、様々な体験等を通じて自分のよさに気づき、他者や地域の役に立とうと思う心や態度を養うことは、学力の定着・向上につながると考えています。学校では、子供たち一人一人のよさを認めながら、自分に自信をもって困難なことにも積極的に挑戦しようとする心や態度を育むとともに、自ら課題を見つけ、自ら学び、問題を解決しようとする学習活動を展開していきます。